



有害物質から子どもを守る会（秋田・宮城）

会報 No. 21 子どもへのコロナワクチン接種④

「5歳から11歳までの子どもにも！」（2022/6/16）

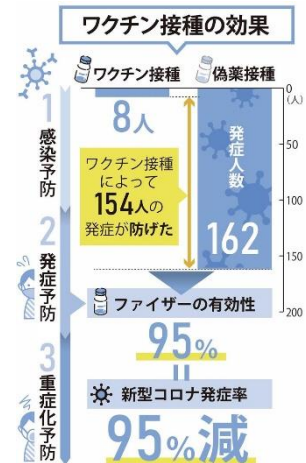
<ワクチンはオミクロン株には効かない>

ファイザー社のワクチン「コミナティ筋注」が特例承認されたのは2021年2月で、武田・モデルナの「スパイクパックス筋注」は同年5月でした。右図のように発症予防効果は95%と宣伝され、不思議なことにモデルナの有効性も94%と非常に近い数値でした。初めてデルタ株が検出されたのが同年3月末ですから、両者のワクチンの第Ⅲ相試験（有効性・安全性の治験）はデルタ株出現以前の株で行われたワクチンです。

南アフリカで初めて検出されたオミクロン株の流行は、日本ではまず沖縄で始まりました。「琉球新報」（2022/1/9）が報道したように、その感染者の66%はコロナワクチンをすでに2回接種した人々でした。当然それから導きだされる推定は、このワクチンの感染予防効果はオミクロン株には殆どないということでした。

ファイザー社とモデルナ社のワクチンはデルタ株に比してオミクロン株には効果が低く、2回目接種の20週後には10%程度の効果しかなかったことは英国健康安全保障庁(UKHSA)も報告しています。またカナダで行われた大規模で厳密な調査結果が「完成しているが未発表」の論文として電子出版されています。カナダの公衆衛生機関やトロント大学、オタワ大学、病院研究所などに所属する研究者10人以上が著者です。9,201人のデルタ陽性例、3,442人のオミクロン陽性例、対照群は471,545例。結果は、ワクチンの効果はデルタ株には日数が経つと感染予防効果が急速に減弱し、3回目の接種によって効果が再び回復。それに対して、オミクロン株に対してはワクチン2回接種でも感染予防効果がなく、3回目を接種して少しの効果の上昇しか認められなかったと報告しています。

<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/uploads/11-3.pdf>



<子どもへのワクチン接種>

新型コロナ感染症(COVID-19)は、日本では諸外国と比べ、重症者や死亡者が少なく、特に未成年者の場合、重症化したり、死亡することは稀です。オミクロン株は中学生、小学生では「鼻風邪」程度なのが殆どです。勿論、感染者が多ければ、中には比較的症状が重い子どもが現れるでしょう。その重症の子どもを取り上げて、「子どもにもオミクロン株は怖い」と恐怖を煽る報道をし、高齢者と同様に若い世代、特に11歳未満から5歳以上の子どもへのワクチン接種を勧めました。子どもへの接種開始は2022年2月末からでした。

未成年者は健康で持病がない人々が殆どです。名古屋大学医学部小児科の小島勢二名誉教授はコロナ感染症とワクチン接種後の重篤報告数・死亡者数を年齢別に分析し、それが週刊誌『女性セブン』（2022/2/10号）にでました。それによると、感染症の方は「重症者+死亡者」数は年齢が低い人々ほど少なく、特に30

10代・20代では「感染」より「接種後」の死亡者の方が多い

感染後・接種後それぞれの年代別重症者数と死亡者数

	コロナ感染		ワクチン副反応	
	重症者数	死亡者数	接種後重篤報告数	接種後死亡報告数
10代	6人	4人	387人	5人
20代	57人	26人	713人	27人
30代	180人	82人	748人	26人
40代	1535人	292人	913人	47人
50代	3386人	825人	728人	74人
60代	4766人	1613人	621人	89人
70代	6553人	4198人	898人	253人
80才以上	3671人	10605人	1356人	587人

代以下では非常に少ないことが分かります。10代では両方合わせて10人にすぎません。一方、ワクチン接種者の副反応をみると、30代以下でも重篤報告数はそれほど減らず、10代では「重篤+死亡」数は392人と、感染によるそれをはるかに超えています。

(コロナ感染の数値は2021年9月2日から2022年1月18日までの累計。ワクチン副反応は2022年1月21日時点。どちらも厚労省発表)

このデータは本来、健康で持病を持たない若い世代が、感染症より、ワクチンの副反応で苦しんだり死亡することが多いことを予告しています。「子どももワクチンを早急に打つように」などという宣伝は、ワクチンメーカーは歓迎するでしょう。しかも製薬会社はどんな副反応がでも免責されているのです。

なお、仙台市医師会では仙台市のホームページに小児科医・川村和久先生のワクチン推奨の動画を載せています。しかし新型コロナの変異株へのワクチンの効果の低下や小児への副反応については現時点(2022/6)でも何も触れていません。

<意見広告、要望書、映画上映>

2022年2月23日の日本経済新聞に1面全体を使った意見広告が掲載されました。広告主は、福岡県で住宅リフォーム関連会社『ゆうネット』を経営する堤猛氏(47)。それまで地方紙など27紙に同様の意見広告を出し続けてきたそうです。彼は「ワクチンに疑問を持ったきっかけは、昨年3月、地元の福岡県八女市(やめ市)で、20代の女性看護師がワクチン接種の4日後に急逝したニュースを見たことです。死因はくも膜下出血だったそうです。日本では健康な子どもがコロナで亡くなった例はほとんどない一方で、ワクチン接種後に体調不良を訴える若い人がたくさんいる。これはおかしいのではないかと思います」と、大阪市立大学・井上正康名誉教授と協力して意見広告を作成した。初めて地方新聞に広告を出した当日、クレーム電話を覚悟して朝から電話の前で身構えていたところ、かかってきたのは意外にも激励と感謝の電話ばかりだったという。しかも2億円以上の寄付金が集まり、全国紙へも掲載を続けたという。



私も微力ながら要望書を作り、仙台市と宮城県のコロナ対策室、県内34カ所の教育委員会、市議、県議計5名に要望書を送った。(反応があったのは小畑仁子県議だけだった。)

そのうち、秋田県の各地で『記録映像・ワクチン後遺症』が上映され始め、宮城県でも仙台泉文化創造センターで上映会が行われた。私も見にでかけ、短期間で映画まで作成したことに驚いた。そしてこのワクチン接種に反対する「有志医師の会」があることを知り、その東北支部(後藤均会長、整形外科医)にすぐ入会した。

<FM太白>

東北有志医師の会は現在2週に1回、Zoom会議を行い、各県の情報と活動報告、広報活動、ワクチン後遺症の相談受付、治療方法についての情報交換などを行っている。他にFM太白の朝8時半から約20分を連続2カ月購入し、「新型コロナ、皆さんこれ知っていますか？」を放送している。小生は後藤会長に頼まれて、計8回放送させていただいた。続いて6月中旬から岩手県北上市の高橋秀一郎先生が3回連続放送中である。FM太白は長町2丁目の太白区図書館の近くで、周波数は78.9、ラジオの性能と電波状況で聞こえにくいこともある。今はインターネットを通じて全国の多数のFM放送をスマホで聞くことができるので、その方が便利だ。

<感想>

FM放送は私は殆ど聞いたことがなかった。患者さん3人から放送を聞きましたと言われ、驚いた。会報の次回は「ワクチン有効宣伝のウソ、益と害のバランス」(文責:加藤純二)